

よなか ふしき わ
世の中には不思議で分かりづら
いことがたくさんあります。自然、
かがく れきし くわ せんせい と
科学、歴史など、詳しい先生に解き
あ
明かしてもらいましょう。

し こう き しん
知りたい好奇心



© 藤ゆたか / ポプラ社

さかな 魚の「すみやすさ」には た よう みず なが ひつ よう 多様な水の流れが必要

昔はどこでも見つけることができた生き物の数が最近減っている、との話をよく聞きます。それにはいろいろな理由があると言われていますが、魚のように水の中にも暮らしている生き物の場合には、川の環境の多様性が少なくなることが理由の一つと言われます。

いろいろな環境

私たちと同じように、川の中で魚が生活するのにも、えさをとる場所、子どもを育てる場所、休む場所などいろいろな場所があること、つまり環境が多様であることが暮らしやすいのです。けれど洪水被害を防ぐために行われる河川改修などによって、川の流れ方が単調になってしまふようなことがあると、魚にとっては環境の多様性が減って、すみにくい川になっ

てしまうのです。

7月に、Yamanashi iみずネットと国土交通省甲府河川国道事務所は、山梨淡水生物研究会と一緒に、「水辺の探検」と称した生き物調査を行いました。芦川が笛吹川に合流する前の地点を調査地にしましたが、水がきれいであることに加え、それほど広くはない場所でも流れの速さや水の深さが違うところがあったせいでしよう、参加した大勢の子どもたちは、いろいろな生き物を見つけることができました。この環境は、川の生き物にとってはすみ心地の良い場所のようです。

人の行為が影響

ところで、捕まえた魚の種類を調べてみると、カワヨシノボリ、カジカ、アユ、ウグイ、アブラハヤなどとともに、



芦川で捕まえられたカワムツ

カワムツという魚がたくさんいました。カワムツは、日本でももともとは能登半島と天竜川水系以西の本州、四国、九州に分布していたのですが、琵琶湖のアユの放流に混じって関東や東北地方にも分布するようになった魚と言われています。

芦川でたくさん見つかったのは、この魚にとっても、ここは産卵し、稚魚が育つのに適した場所なのでしょう。山梨淡水生物研究会の皆さんによると、山梨県内にも、これまでよく見かけた魚以上に、カワムツの数の多さが目立つようになった川がある、とのことでした。

アユの放流は人の手によるものです。こうして魚を捕まえてその種類や数を調べてみることで、人の行為が思いがけないところにも影響を及ぼしていることを知ることができました。皆さんも近くの川の魚を調べてみませんか。(山梨大学総合研究部国際流域環境研究センター教授 風間ふたば)



「水辺の探検」で調査した地点は、水がきれいな上にそれほど
広くない場所でも多様な水の流れがありました。 || 市川三郷町